

4 五丁目観音堂

江戸時代後期の信州飯田街道沿いには、地蔵菩薩や馬頭観音などの石造物が多くみられたようですが、街道の要衝であり当時東屋玉屋の茶店があった傍らに明治15(1882)年に合祀されたのが、この観音堂の始まりといわれています。堂の奥には地蔵菩薩・行者・儒者像が刻まれている明治21(1888)年造の「木之本地蔵」をはじめ、11体の石造物が2列に並んでいます。全て表面には鮮やかな彩色が施されています。



5 境井の辻(ニョウライサン)

下品野から鳥原へ向う山裾の三叉路に石仏群があり、地元ではニョウライサンと呼ばれています。石仏は北から、赤い前垂れのある地蔵坐像、弘法大師石造、地蔵他三体が刻まれる木之本地蔵、錫杖を持つ僧形石像、石堂に収まる石像が並んでいます。どれが「ニョウライサン」であるかは不明です。ニョウライサンは疣神いぼとして信仰されており、皮膚病の神様ともいわれる尾張旭市庄中の直会神社なほらいが「ニョウライサン」呼ばれていることから、この直会神社を祀ったものかも知れません。



6 八幡神社

鳥原地区の氏神として祀られています。中品野の落合城を居城とする戸田氏の家老であった岩松俊房が鳥原一帯を支配し、大分県の宇佐八幡社をこの地に勧進したと伝えられます。鳥居から長い石段を上ると途中に広場があり、ここで盆踊りなどが催されます。広い境内地には本殿の他、天王社、熊野社、神明社などが祀られています。



7 秋葉社

以前は船山にあった秋葉堂や庚申堂などを鳥原会館の東に移設したものです。庚申堂には青面金剛童子像が祀られています。その隣には秋葉堂があり、その前には常夜燈が設置されています。周辺の石塔群も船山から移設したもので、観音石像、庚申塔、念仏供養塔、弁財天が集められています。



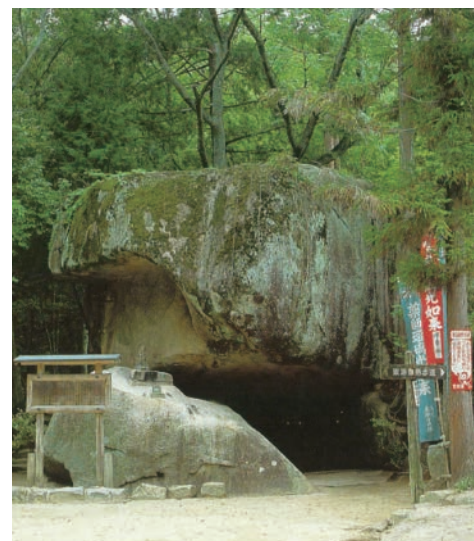
8 浄源寺

由緒としては、聖武天皇の時代に浄源寺の飛境内地に行基が千手観音、白衣観音、薬師如来の三体を彫刻し石室に安置したことに始まるとされます。この時に野鳥が木の実をくわえて仏前に供えたことから鳥原の地名ができたという伝説も残っています。享徳3(1454)年に雲興寺二代天先祖命によって白衣観世音菩薩(行基作)を本尊としてこれまで天台宗を改宗して浄源寺を建立しました。寺宝としては御朱印安藤対馬守一通、天神名号一福などがあります。



9 岩屋堂

岩屋堂は奇岩の名勝として古くから知られ、幕末の状況を記載した『尾張名所図会』中に「岩屋堂」の図が掲げられ、「中品野村、半田川筋の支流に傍て一巨巖あり、…其岩のさま山の麓より川ぞいの低き方へ倒れかかりたるが如し。…其あわひあわひ自からうつろにして、人快く出入す。中に薬師仏を安置したるが故に岩屋堂の称おこる」とあります。岩屋堂を奥の院と位置づける浄源寺などとともに奈良時代の僧行基による開山伝説があり、行基が彫った仏像三体のうち岩屋堂には薬師如来、浄源寺に白衣観音、上品野の菩提寺に千手観音を祀ったとされます。周辺は奇岩や渓谷美の地として明治時代から公園整備が図られ、夏は天然プールなどの避暑地、秋は紅葉のライトアップなど行楽地として知られています。



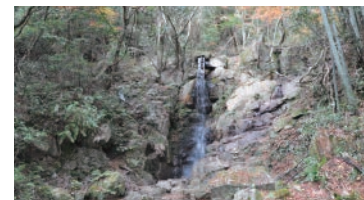
Check 遊行庵

昭和3(1928)年に知立市の天台宗総持寺宝珠院をこの地に移転し、現在は遊行庵となっています。本堂に毘沙門天、不動明王、弘法大師、観音像が祀られています。



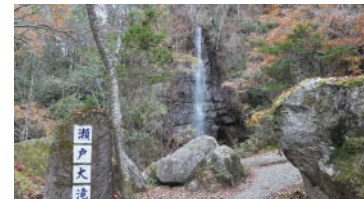
Check 暁明ヶ滝

大正2(1913)年に作られた人工の滝です。清めの滝とも呼ばれ、修行の滝としても用いられます。水量によって右側に小さな滝が現れ「幻の滝」と呼ばれます。



Check 瀬戸大滝

公園の奥に向かって、川沿いに未舗装の遊歩道をまっすぐ進むと瀬戸大滝に到着します。落差17mで川床に降りてしびきを浴びるぐらいの距離まで近づくことができます。



Check 岩巢山展望台

岩屋堂から東海自然歩道を北に約20分程度上ると標高481mの岩巢山頂上に至ります。展望台が設置されており、天候が良い時は、瀬戸市街を眼下に、遠く濃尾平野から平野西側の養老山地、鈴鹿山地まで眺望が広がっています。

